地域看護学

１　構　成　員

	平成 24 年 3 月 31 日現在
教授	2 人
准教授	0 人
講師（うち病院籍）	1 人　　（0 人）
助教（うち病院籍）	2 人　　（0 人）
助手（うち病院籍）	0 人　　（0 人）
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人
医員	0 人
研修医	0 人
特任研究員	0 人
大学院学生（うち他講座から）	0 人　　（0 人）
研究生	0 人
外国人客員研究員	0 人
技術職員（教務職員を含む）	0 人
その他（技術補佐員等）	0 人
合計	5 人

２　教員の異動状況

巽　あさみ（教授）（H16.4.21～現職）

鈴木みずえ（教授）（H20.8.1～現職）

大塚　敏子（講師）（H20.4.1～現職）

菊地　慶子（助教）（H19.4.1～現職）

水田　明子（助教）（H20.4.1～現職）

３　研究業績

数字は小数２位まで。

	平成 23 年度
（1）原著論文数（うち邦文のもの）	3 編　　（ 2 編）
そのインパクトファクターの合計	1.54
（2）論文形式のプロシーディングズ数	2 編
（3）総説数（うち邦文のもの）	10 編　　（10 編）
そのインパクトファクターの合計	0.00
（4）著書数（うち邦文のもの）	13 編　　（13 編）
（5）症例報告数（うち邦文のもの）	7 編　　（ 7 編）
そのインパクトファクターの合計	0.00
（6）その他（レター等）	0 編
そのインパクトファクターの合計	0.00

（1）原著論文（当該教室所属の者に下線）

A．筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 鈴木みずえ, 水野裕, 坂本涼子, 津谷真帆, 丸田隆一, 奥百合子, 常田佳代, 金森雅夫, Brooker D: パーソン・センタード・ケアを目指した認知症ケアマッピング(DCM)の発展的評価介入の有効性 スタッフと認知症高齢者に及ぼす効果, 日本認知症ケア学会誌,10(3),356-368,2011.

インパクトファクターの小計　［ 0.00 ］

C．筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの

1. 金森雅夫,鈴木みずえ: 高齢者施設における転倒リスクアセスメントツール使用を促進する要因:保健の科学,54(3),209-214,2012.
2. Dijkstra A, Yönt GH, Korhan EA, Muszalik M, K dziora-Kornatowska K, Suzuki M: The Care Dependency Scale for measuring basic human needs: an international comparison., Journal of Advanced Nursing,2012 Feb 23,doi: 10.1111/j.1365-2648.2011.05939.x.

インパクトファクターの小計　［ 1.540 ］

（2）論文形式のプロシーディングズ

A．筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Suzuki M, Kurata S, Makino K, Yamamoto E, Kanamari M: Behavioral Factors and Symptoms of Cognitive Impairment on Fall Risk Factors among Elderly in a geriatric Facility in Japan, Gerontology & Geriatric 2011 Ninth Asia/Oceania regional congress of Gerontology & Geriatric, p.240-241,2011.

C．筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの

1. Kanamori M, Isowa T, Suzuki M, Fukahori A, Sawai S Murashima S, Nested case-control study Physical activity of the elderly in fishing village region of Japan, Gerontology & Geriatric 2011 Ninth Asia/Oceania regional congress of Gerontology & Geriatric, p.61-62,2011

（3）総　　説

A．筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 巽あさみ: 看護職が行うメンタルヘルス教育,産業ストレス研究,18：137-146,2011.
2. 巽あさみ: 職場のメンタルヘルスにおけるポピュレーション・アプローチ,産業ストレス研究,18:287-294,2011.
3. 巽あさみ: 新たな睡眠保健指導システムを構築するー睡眠保健指導支援プログラムの研究からー保健師ジャーナル,67(7),603-607,2011.
4. 鈴木みずえ: 看護ケアとしてのタクティールケアの意義と効果, コミュニティケア,13(12), 12-17, 2011.
5. 鈴木みずえ: スウェーデンにおける高齢者・認知症ケア,コミュニティケア,13(12), 66-71 ,2011.
6. 鈴木みずえ: 施設での転倒予防、ここに注意する,コミュニティケア,13(4),58-61,2011.

インパクトファクターの小計　［ 0.00 ］

C．筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの

1. 清水栄利子,飯田優子,野村幸代,高田直美,黒宮孝子,巽あさみ**:** 「まちづくり」の現場 市民と行政が協働で取り組む健康日本 21 計画 「愛西のびのびストレッチ」の制作・普及活動をとおして,保健師ジャーナル,67（9）,786-790,2011.
2. 赤井信太郎, 鈴木みずえ: “認知症看護認定看護師”から学ぶ認知症高齢者の転倒予防: 整形外科病棟における転倒予防,臨床老年看護,19(1), 103-108, 2012.
3. 仲由紀子, 鈴木みずえ: “認知症看護認定看護師”から学ぶ認知症高齢者の転倒予防: 精神科病棟における転倒予防,18(6), 105-110 ,臨床老年看護,2011.
4. 高原昭, 鈴木みずえ： "認知症看護認定看護師"から学ぶ認知症高齢者の転倒転落予防 急性期病院における転倒予防: 臨床老年看護,18(5),76-81,2011.

インパクトファクターの小計　　［ 0.00 ］

（４）著　　書

A．筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 巽あさみ: 睡眠保健指導マニュアル巽あさみ（編者）,大塚敏子,浜松医科大学,静岡県,2012.
2. 鈴木みずえ: 転倒リスクとしての認知症の行動と心理症状(BPSD)の特徴は？ 武藤芳照, 鈴木みずえ（編者）,認知症者の転倒予防とリスクマネジメント,日本医事新報社,東京,pp.46-50,2011.
3. 鈴木みずえ: 家族に対する転倒の危険性共有の高良きかけは, 武藤芳照, 鈴木みずえ（編者）, 認知症者の転倒予防とリスクマネジメント,日本医事新報社,東京,pp.158-161,2011.
4. 鈴木みずえ: パーソン・センタード・ケアの立場からの転倒予防の重要性は？ 武藤芳照, 鈴木みずえ（編者）,認知症者の転倒予防とリスクマネジメント,日本医事新報社,東京,pp.107-110,2011.
5. 鈴木みずえ: 転倒を予測し、予防するための危険予知トレーニングとは, 武藤芳照, 鈴木みずえ（編者）,認知症者の転倒予防とリスクマネジメント,日本医事新報社,東京,pp.179-183,2011.
6. 鈴木みずえ: 認知症高齢者の転倒は予防できるか, 道又元裕（編者）,ケアの根拠 第二版 看護の疑問に答える１８０のエビデンス,日本看護協会出版会,東京,pp.156, 2012.
7. 鈴木みずえ: 認知症高齢者は自らの QOL を訴えられるか, 道又元裕（編者）,ケアの根拠 第二版 看護の疑問に答える１８０のエビデンス,日本看護協会出版会,東京,pp.150,2011.
8. 鈴木みずえ: 認知症ケアマッピングは効果があるのか, 道又元裕（編者）,ケアの根拠 第二版 看護の疑問に答える１８０のエビデンス,日本看護協会出版会,東京,pp.151,2011.
9. 鈴木みずえ: 認知症高齢者のアクテビティケアは効果があるのか, 道又元裕（編者）,ケアの根拠 第二版 看護の疑問に答える１８０のエビデンス,日本看護協会出版会,東京,pp.154,2011.
10. 鈴木みずえ: 韓国語版 転倒予防―リスクアセスメントとケアプラン, 医学書院, 翻訳出版社 (Yeong Mun Publishing),2011.

C．筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの

1. 柳川洋,尾島俊之,北村邦夫,中村好一,菊地慶子,倉田貞美,近藤今子,柴田陽介,巽あさみ,千原泉,坪井聡,中村美詠子,西山慶子,長谷川拓也,原岡智子,水田明子,安田孝子,渡辺晃紀（五十音順）：保

健指導ノート 2012 公衆衛生の現状,（社）日本家族計画協会,東京.

2. 矢野栄二・井上まり子編 関根秀一郎,飯島美世子,湯浅誠,脇田滋,奥西好夫,杉田稔,鶴が野しのぶ,錦谷まり子,飯島純夫,巽あさみ,丸山総一郎,瀬戸昌子,毛利一平,吉川徹,酒井一博,森晃爾,石竹達也: 非正規雇用と労働者の健康,pp168-201,労働科学研究所,2011.
3. 見藤隆子,小玉香津子,菱沼典子総編集,會田信子,粟生田友子,青柳優子、赤沢雪路,巽あさみ他: 看護学事典第２版,日本看護協会出版会,2011,東京.

（５）症例報告

Ａ．筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 大塚敏子, 荒木田美香子, 三上洋: 高校生の将来喫煙のリスクに対応した喫煙防止教育の効果の検討,地域看護学会誌,14（2）,72-81,2012.
2. 水田明子,巽あさみ: 大学における来談者相談に対する保健室担当者が抱える困難と課題,日本地域看護学会誌,14（2）,92‐100,2012.
3. 巽あさみ他: 第16回静岡健康・長寿学術フォーラム記録集,pp115－116,2011.
4. 巽あさみ,大塚敏子,小林章雄: 健康診断時における「うつ病・自殺予防のための睡眠保健指導システムの開発に関する研究」報告書,静岡県・浜松医科大学,平成24年3月.
5. 巽あさみ,大塚敏子,小林章雄: 行政における「うつ病・自殺予防のための睡眠保健指導システムの開発に関する研究」報告書,静岡県・浜松医科大学,平成24年3月.
6. 巽あさみ,小林章雄:大規模事業所における「うつ病・自殺予防のための睡眠保健指導システムの開発に関する研究」報告書,静岡県・浜松医科大学,平成24年3月.
7. 巽あさみ:職場のメンタルヘルス研修における管理監督者の事例検討の有効性に関する研究,浜松医科大学,平成24年3月.

インパクトファクターの小計　［ 0.00 ］

４　特許等の出願状況

	平成 23 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

５　医学研究費取得状況

	平成 23 年度	
（１）文部科学省科学研究費	4 件	(478 万円)
（２）厚生労働科学研究費	0 件	（ 0 万円）
（３）他政府機関による研究助成	0 件	（ 0 万円）
（４）財団助成金	0 件	（ 0 万円）
（５）受託研究または共同研究	2 件	(884 万円)
（６）奨学寄附金その他（民間より）	0 件	（ 0 万円）

（１）文部科学省科学研究費

巽あさみ（代表者）　基盤研究（C）　うつ病・自殺予防のための健康診断における不眠に対する保健指導システムの開発　平成 23 年４月１日～平成 24 年３月 31 日　143 万円(継続)

鈴木みずえ（研究代表者）　基盤研究（B）　臨床判断プロセスを基盤とした認知症高齢者のための転倒予防包括看護質評価指標の開発　260 万円（継続）

鈴木みずえ（分担研究者）　基盤研究（A）　高齢者訪問看護質指標を用いたインターネット訪問看護支援システムの有効性検討研究代表者　山本則子　25万円（継続）

大塚敏子（研究代表者）　若手研究（B）　高校生の肥満と社会的スキルの関連の検討　50万円（継続）

（5）受託研究または共同研究

巽あさみ　うつ病・自殺予防のための健康診断における睡眠に関する保健指導に関する研究　静岡県　平成 23 年５月９日～平成 24 年３月 23 日　代表者（735 万円）

巽あさみ　うつ病・自殺予防のための健康診断における睡眠に関する保健指導フォローアップ調査研究　静岡県　平成 23 年６月１日～平成 24 年３月 23 日　代表者（149 万円）

7　学会活動

	国際学会	国内学会
（1）特別講演・招待講演回数	0 件	0 件
（2）シンポジウム発表数	0 件	1 件
（3）学会座長回数	0 件	4 件
（4）学会開催回数	0 件	0 件
（5）学会役員等回数	0 件	13 件
（6）一般演題発表数	2 件	

（1）国際学会等開催・参加

5）一般発表

ポスター発表

1. Tatsumi A, Murata C, Otsuka T:Association between depression among male workers and sleeping problems in Japan, American Public Health Association 139th Annual Meeting & Exposition,2011 年 10 月 30 日 Washington, DC.
2. Kondo R, Nakamura S, Yoshikura T, Ngashima M, Matsuoka B, Irisawa H, Yamauchi K, Suzuki　M, Mizushima T: The relationship between knee muscle’s functional ability and 10 meter maximal walking time in patients with chronic stroke,the 16th World Congress for physical therapy (WCPT) congress,20-23 June 2011,Netherlands.

（2）国内学会の開催・参加

3）シンポジウム発表

1. 巽あさみ: 「健康診断時における不眠スクリーニングと保健指導システムの構築」,平成 23 年 10 月 22 日,第 16 回静岡県健康・長寿学術フォーラム,静岡.

4）座長をした学会名

巽あさみ：　「健康長寿のためのこころのケア」シンポジウム座長,第 16 回静岡県健康・長寿学

術フォーラム,平成 23 年 10 月 22 日,静岡.

鈴木みずえ: 第 31 回日本看護科学学会学術集会,2011 年 12 月,高知.

鈴木みずえ: 第 9 回転倒予防医学研究会研究集会,2011 年 10 月,東京.

鈴木みずえ: 第 12 回日本認知症ケア学会大会,2011 年 9 月,横浜.

（３）役職についている国際・国内学会名とその役割

巽　あさみ　日本産業衛生学会　代議員

巽　あさみ　日本看護医療学会　理事、査読委員

巽　あさみ　日本産業ストレス学会　理事、編集委員

巽　あさみ　日本産業衛生学会　東海地方会　理事

巽　あさみ　日本産業衛生学会　産業精神衛生研究会世話役

巽　あさみ　日本産業衛生学会　職場ストレス研究会　ワーキングメンバー

巽　あさみ　日本産業衛生学会　就労女性健康研究会世話役

鈴木みずえ　日本看護科学学会　査読委員

鈴木みずえ　日本看護研究学会　査読委員

鈴木みずえ　日本老年看護学会　評議委員・日本老年看護学会誌編集委員

鈴木みずえ　日本認知症ケア学会　評議委員・査読委員・東海部会委員

鈴木みずえ　第 13 回日本認知症ケア学会大会：大会実行委員

鈴木みずえ　転倒予防医学研究会　世話人・学術委員

８　学術雑誌の編集への貢献

	国　内	外　国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0 件	0 件

（３）国内外の英文雑誌のレフリー

鈴木みずえ　2 回 American Journal of Alzheimers Disease & Other Dementias（米国）

鈴木みずえ　3 回 Geriatrics and Gerontology International（日本）

鈴木みずえ　1 回 Japanese Journal of Nursing Science（日本）

９　共同研究の実施状況

	平成 23 年度
（１）国際共同研究	0 件
（２）国内共同研究	3 件
（３）学内共同研究	0 件

（２）国内共同研究

巽あさみ,小林章雄（愛知医科大学衛生学）: うつ病・自殺予防のための健康診断における睡眠に関する保健指導に関する研究

鈴木みずえ,泉キヨ子（帝京科学大学）,谷口好美,平松知子,加藤真由美（金沢大学）,水谷信子（元兵庫県立大学）,丸岡直子（石川県立大学）,岡本恵理（三重県立看護大）,加藤真由美（新潟大学）,

小林小百合（東京工科大学）,菊地慶子: 臨床判断プロセスを基盤とした認知症高齢者のための転倒予防包括看護質評価指標の開発

鈴木みずえ,山本則子（東京医科歯科大学）: 高齢者訪問看護質指標を用いたインターネット訪問看護支援システムの有効性検討

10　産学共同研究

	平成 23 年度
産学共同研究	0 件

12　研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. うつ病・自殺予防のための睡眠保健指導に着目した研究

　本研究は一昨年から取り組んでいる日本の現役世代の自殺を予防するための睡眠を切り口としたメンタルヘルス対策としての研究テーマである。睡眠障害はうつ病に多く見られる症状であり、適切な睡眠をとることでうつ病等が予防できると推測される。しかし、実際に睡眠保健指導の効果を検証した研究は少ない。今年度は K6 得点（うつ病・不安障害スクリーニングテスト）が 10 点以上の者は男性労働者の１割以上いること、及びストレスや倦怠感、不眠との有意な関連があることについて、海外の学会ＡＰＨＡ（ワシントンＤＣ）で発表した。また、今年度は新規に市町村住民における睡眠保健指導介入研究と、昨年度調査の１年後のフォローアップ調査を実施した。

（巽あさみ、小林章雄（愛知医科大学））

2. 臨床判断プロセスを基盤とした認知症高齢者のための転倒予防包括看護質評価指標の開発

　臨床判断プロセスを基盤とした認知症高齢者のための転倒予防包括看護質評価指標の各項目に関して分担研究者とともに開発し、認知症看護認定看護師らのエキスパートパネルに協力を得て内容を精選した。（鈴木みずえ、泉キヨ子（帝京科学大学）、谷口好美、平松知子、加藤真由美（金沢大学）、水谷信子（元兵庫県立大学）、丸岡直子（石川県立大学）、岡本恵理（三重県立看護大）、加藤真由美（新潟大学）、小林小百合（東京工科大学）、菊地慶子）

3. 高齢者訪問看護質指標を用いたインターネット訪問看護支援システムの有効性検討

　高齢者訪問看護質評価指標「転倒予防」に基づくインターネットを用いた訪問看護師への支援プログラムが、訪問看護サービスの向上や利用者の評価につながるかを分析して、プログラムの有効性を検討した。浜松市内と豊橋市の訪問看護ステーションに参加を依頼して１年間の介入を継続した。

（鈴木みずえ、山本則子（東京医科歯科大学））

4. 高校生の肥満と社会的スキルの関連の検討

　高校生のコミュニケーションスキル、ストレスへの対処方法等の社会的スキルや生活習慣と、肥満との関連性を明らかにすることを目的に、3つの高等学校の1年生553名を対象に質問紙調査を行った。また、各生徒の身長・体重のデータから肥満度を算出し、やせ群（肥満度-20%以下）、普通群、肥満群（肥満度+20%以上）の3群に分類して上記質問項目との関連を分析した。結果、肥満群は男子10.6%（26名）、女子6.8%（19名）、やせ傾群は男子2.0%（5名）、女子2.1%（6

名）で、男女とも肥満およびやせ群の割合は全国平均および都道府県平均を下回っていた。調査した社会的スキルの項目と肥満との関連では、女子のストレスへの対処方法で、普通群に比べ肥満群の方がストレスが生じた際に肯定的解釈ができない傾向にあったが、その他の項目には有意な関連はみられず、社会的スキルと肥満との関連は個別性が高いことが考えられた。また食習慣では、男女ともに肥満群は普通群より「食べ過ぎた後に後悔する」などの過食傾向や、「自分は太りやすい体質」であるとの認識が強かった。しかし、「早食い」などの食べ方や、「脂っこいものがすき」などの太りやすい嗜好、「目の前にあるとつい食べてしまう」などの代理摂食については普通群と肥満群に有意差はなかったことから、肥満群は太りやすい食行動について認識していない可能性があり食行動への認識に関して介入が必要と考えられた。

（大塚敏子）

13　この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

1. 睡眠保健指導の意義と重要性について、保健師や栄養士など睡眠保健指導担当者向けに DVD を作成した。睡眠のメカニズム、メンタルヘルスとの関連、研究で得られた保健指導の効果について保健指導者にわかりやすく解説し、睡眠に関する調査項目、保健指導までの具体的な方法等についても実際の資料を紹介しながら解説している。また、昨年度までに開発した「睡眠保健指導マニュアル」を DVD と合わせて使用できるように編集して冊子化した。
2. 認知症高齢者のニーズに関する研究として、ケア依存度尺度（Care Dependency Scale）を用いてオランダ、トルコ、ポーランド、日本の 4 か国における国際共同研究を実施した。研究代表者である Ate Dijkstra（NHL University of Applied Sciences、オランダ）博士が米国の Journal of Advanced Nursing にその成果を発表した。

14　研究の独創性，国際性，継続性，応用性

1. うつ病・自殺予防のための睡眠保健指導に着目した研究において、開発したＷＥＢによる睡眠に関する調査は、調査を実施するにあたって、印刷する必要がないこと、また、調査の結果、睡眠障害のある者および保健指導の内容が一覧表で確認できるようにプログラムされているため、速やかに保健指導が実施できると言うメリットがある。事業所でメンタルヘルス対策として導入することがマンパワー、経済性からみて応用性に優れていると考えられる。
2. 予防包括看護質評価指標を認知症認定看護師も含めた研究グループで開発し、今後、エキスパートパネルなどによる信頼性・妥当性を確立させて実行可能性の高い指標として完成させる予定である。

15　新聞，雑誌等による報道

1. 「心の健康の重要性訴えー浜松でシンポ、職場復帰対応など学ぶー」静岡新聞 平成 24 年 3 月 9 日
2. 「静岡健康長寿・学術フォーラム」静岡県広報紙　県民だより９月号　平成 23 年 9 月 4 日
3. SBS ラジオ「ほのぼのワイド中村こずえの smile for you」『すこやか介護』
   「タクティールケア」とは？　平成 23 年 4 月 26 日（火）午前 10 時 45 分頃～10 時 54 分
4. 日経 BP ムック日経ヘルスプルミエ編　介護の現場でも注目されるタクティールケア　認知症高齢者との言葉を超えたコミュニケーション手段に　p.128, 平成 23 年 4 月 15 日発刊.